



めまいと言っても、いろいろなタイプのめまいがあります。クルクルと天井が回るようなめまい、ふわふわと足元が地につかないようなめまい、なんとなく頭が「ぼーっとする」めまい、人によって様々です。また「なんかめまいがする」とおっしゃる患者さんの中には、なんとなく具合が悪いけど具体的にどう悪いのか言葉で表現しにくいという方もいらっしゃいます。

もちろん、めまいそのものは日常生活や仕事に支障をきたす、つらい症状です。そして何か悪い病気の前兆ではないかと不安になってしまいます。症状は早くとってあげることが大切ですし、何よりも悪い病気の前兆である危険なめまいかどうか、専門医による診察が必要です。心配な時には遠慮せずに、かかりつけ医に相談してみましよう。

もっともよく遭遇するめまいは、内耳性のめまいです。耳の奥には体のバランスを認識する部分があります。そこが一時的に不具合をおこします。典型的な症状は、回転いずに座ってクルクルと回り、びたっと止まった時のような感覚です。一度や二度、子供のころに遊びで経験したことがあるかと思います。こんな時、目をよく見てみると眼振といって、両目が小刻みに振動していることがあります。点滴や薬で改善することがおおいですので、すぐに専門医に相談してみましよう。

では、次に脳に関係した危険なめまいについてです。頭の後ろ下側には小脳という、うまくバランスをとって体を動かす部分があります。その前方には脳幹という生命の中核があります。脳幹からは飲み込みの神経や目を動かす神経も出ています。

では危険なめまいのチェックポイントです

「コップに水を入れて飲んでみる」

「足をひろげて立っている」

「ものが二重に見える」

他にもいくつかありますが、めまいの他に何か違う症状を伴えば、それは危険なサインかもしれません。

では「コップに水を入れて飲んでみる」というのは、手は動くけれども上手に手を使えないということです。めまいがしたときに、コップをとって水をいれ口元にもっていき水を飲んでみてください。この一連の動作のうちどれか一つでもできなければ、小脳や脳幹に何か異常なことがおきた可能性があります。この様な時には迷わず救急車を呼んで脳かかりつけ医のもとへ搬送してもらいましよう。決して待つてはいけません。

「足をひろげて立っている」というのは、地震でもないのに地面が揺れている、大きく足を広げていないと立っていられない。これは体幹失調、小脳や脳幹に何か異常なことがおきた可能性があります。この様な時には迷わず救急車を呼んで脳かかりつけ医のもとへ搬送してもらいましよう。決して待つてはいけません。

「ものが二重に見える」、めまいに伴ってものが二重に見える場合、これは危険なサインです。迷わず救急車を呼んで脳かかりつけ医のもとへ搬送してもらいましよう。決して待つてはいけません。

めまいの大部分は一時的で適切な治療によってよくなります。しかし、中には命に直接かかわる危険なめまいもあります。めまいのほかになんか違う症状を伴えば、それは危険なサインかもしれません。

危険なめまいのチェックポイントです

「コップに水を入れて飲んでみる」

「足をひろげて立っている」

「ものが二重に見える」

このような時には躊躇なく救急車を要請し脳かかりつけ医のもとへ搬送してもらいましよう。決して待つてはいけません。また、典型的ではないめまいも多くあります。遠慮なくかかりつけ医に相談しましよう。